

【知事からの説明】

新田知事より 資料（別添）により富山県成長戦略会議「中間とりまとめ」について説明

【グループ発表①～⑤】

①リトルフードワールド。世界の各国の料理を食べられる場所があったらいいんじゃないかという意見がありました。僕も世界中旅していてインドから最近帰ってきたんですけどいろんな国の料理・お酒が楽しめる場所を頑張って作ります。それと、娯楽をもっと増やしたらいいよねということで休日とか出掛ける場所が少ないんじゃないかということで増やしたいという意見がでました。

キャンドルとランタンの地場産業化・観光地化。滑川市はキャンドルとランタンに力を入れているのですがどうしても全体に広がっていかないの、しっかり地場産業化してまちのなかで育てていって、まちの名物になるようにして、キャンドルとランタンがいつも見れるようにするとか、もっとイベントを増やすとかできたらもっと盛り上がるのかなと思います。

知事：スタートアップチーム、どうもありがとうございます。確かに新しいビジネスという提案が多いように思います。これからスタートアップを育ていこうというそんな環境づくりをどんどんやっていきますので。つい最後は上場という大きなものもやればいいのかと考えてしましますが、一方で地域の課題解決に繋がるようなスモールビジネスも大切だと思うのですね。両方活発にできるような富山県にしていけたらと思います。滑川市だけで成り立たせようとするとなかなか難しいかもしれません。ですから、そういう時は魚津と連携したりとか役割分担も大いにやればいいのかと思いました。

市長：キャンドルの話が出ましたけれども。本格的な大きなキャンドルは去年からです。それまでもちょっとやっておりました。地区ごとにキャンドルを巡回していくのもいいかと思えます。一か所に留まることもないかと思えます。新しいアイデアを掛け合わせて、滑川の新しい名物になることを期待しています。

②美しい風景と新産業で集まりましたが、空き家問題がでてきました。滑川市は空き家が多いとか、そこでスタートアップ支援していったらいいよねとか。空き家というのも一つのまちの風景ですので、そういったものを美しくするためには職人さんが育つような環境をちゃんとつくっていく。職人さんが学べるような学校だったり仕組みをつくるのが大事ではないかと。滑川はホタルイカとか蛍。行田公園も蛍がいっぱいいますが、そういった風景をつくっていくというのもあがりました。

一番票を集めたのは、川を中心にしたまちづくり。滑川は川が集まってくるような地形になっておりまして、小さい川がたくさん走っているんです。川を中心に空き家問題や美しい風景づくりに取り組んで新しいまちのビジョンをつくっていくのではないかと思います。

知事：空き家のことはどの町でも起きている課題です。最後は壊すことになってしまいますが、もったいないです。なんとか壊す前に空き家の活用。ぜひ滑川発の空き家活用事業をしていただきたいと思います。

市長：滑川は光の町です。ホタルイカ、蛍、星空。富山県の空気が一番いい街であります。生かしていきたいですね。

③まちづくりというテーマで集まりました。空き家を活用するというので、高齢者の方がeスポーツをやるということを空き家でやったらいいのではないかという意見が出ました。瀬羽町に空き家がたくさんあるのですがリサイクルをされている金山産業さんが買い取って中央エステートに出されていて、実は空き家って賃貸で安く借りられるということも知られていないのかなという気がするので、そういった情報も出していけたらいいなと思います。あとはコンパクトシティにするということで、人が薄く散らばっているのではなくてまとまった単位で小さく住んでいけば地域同士のコミュニティも活性化できるし公共サービスのコストも下がるんだろうなと思います。カーシェアリングだったりデマンドタクシーがもっと僕たちが自由に使えるようになったらいいな。あとは駐在所にお巡りさんがもっとずっといてくれるような安心なまちになったらいいねとか、雪かきが大変だったりするけどその雪をプラスにしてなにかできないかなとか、公園通りに行列のできるラーメン屋ができたらいいいねとか。子どもたちが帰ってくれるように子どもとおじいちゃんおばあちゃんがもっと交流してまちを好きになってくれたらいいねという意見が出ました。

知事：これからは“シェア”というのが大きなキーワードになるかと思います。みんなで共に使って活用して、新たな命を吹き込んでいく。そんなことが大切だと思います。eスポーツは県でも実験をします。eスポーツで高齢者の活性化ができないかということ。ぜひ県でやってみて成功したら、滑川でも社会実装してもらいたいと思います。

市長：雪の事も考えていただきました。駐在所のことも考えていただきました。今問題にしていることではありますが、雪については大雪で県下全域の学校が2日間休んだところ滑川は1日で済みました。空き家については永遠のテーマで現在600~800戸ほど空き家があります。町部にも村部にもあります。活用によっては生かされると思っています。

④真の幸せウェルビーイングについて話し合いました。安心の子育てをしていく上で学童保育って大事なんですが支援員の方が少なくなっていて。うちの子も3年生の時に、1,2年生を優先したいから入れませんと言われたり。活力あるシニアの方が多いいということで、65歳以上の方にも参画していただけたらいいなと思います。シニア層の生きがいにも繋がると思います。オンラインを使って顔を合わせる機会をつくれればいいのではないかと。高齢者でスマホの扱い方など苦手な方もいらっしゃると思うので支援員の方を配置して相談にのっていただく。海外の料理も滑川で食べられるように外国人の方に教わったりする機会をつくれれば交流にもなっているのではないかという話もでした。

知事：シニアの方が元気だしまだまだやれるよということだったと思います。若い女性のウェルビーイングも大切ですが、やはり富山県を、滑川市を引っ張ってくださっている先輩

方、今はもう余生なんていう時代じゃないですから人生100年時代いつでも元気で現役でやっていただく。若い世代の役に立つこと、本当にwin-winな関係だと思えます。ぜひそんな仕組みづくりをしていけばと思います。

市長：今は女性も働き、今7時以降までの希望が多くなっておりますが、支援員も家庭をもっていますので、バランスをとってできる限りやっていきたい。

シニア層の生きがいについてですが、元気な高齢者が高齢者を介護するような形で介護が充実していけばいいなと考えています。

⑤富山の魅力発信、官民連携、出入りの活性化のテーマで集まりました。みんなで話し合うとやっぱり食でした。富山県民って全国の人に比べて食が贅沢なんだよと。食が豊かなんだということ子どもの中に自覚してもらって、子どもの舌を育てることがまず大事なんだと。そのために美味しい魚や野菜を食べてもらうことを積極的に給食にとりいれていくとか。有機農業やりたい人を誘致することも必要だと思いますし、食べるだけじゃなくて海で遊ぶとか、魚のさばき方を教えてもらったり、お母さんたちに干物の作り方を教えてもらうのもありなんじゃないかなと思いました。あとは自転車ツーリズムとか裏路地巡り。人の私有地なのか公共道路なのかわからないところを探検するところからのまちを楽しむこともできるんじゃないか。ダイビングやサーフィンもやりたいけど教えてくれる場所がよく分からなくて。そういう事業者が生まれたらいいなと。

知事：食の美味しさなどわれわれが当たり前と思っていることを子どもの頃からしっかりと教育して食育をやっていくことはとても大切だと思います。折角の食材を無駄にしない。食の廃棄物をゼロにすることも併せて食育を行っていく。我々だけでなく次の世代にしっかりと継承していくのが我々の役目だと思います。

市長：滑川市は学校給食の残食率が1%以下になっています。私は10年間ずっと食育を先行してやってきまして文部科学大臣賞や北陸農政局の賞をいただいている。富山県で一番成功していると思っています。農水省はおいしい嬉しい楽しいと掲げております。子どもたちは給食がおいしいと言っています。お家に帰ってお母さんに「最近お肉ばかりやね」「緑が少ないよ」というふうに子どもが食を変える。地域の食が変わる。そんな風に食育はこれからもサポートしていきたいと思っています。

【振り返り】

参加者：皆さんの意見を聞いて今まで自分が感じていなかったこととか聞けて楽しかったです。ただ僕はウェルビーイングでしたっけ。真の幸せという意味がちょっとわからなくて。抽象的なもののなかでいろいろ話をしてしまったので、もうちょっと具体的にどういう話なのかわかったらよかったのかなと。ウェルビーイングの意味をもっと私自身が理解したいと思いました。

参加者：2つの事を思っています。ひとつはウェルビーイングの話で。お金がないと幸せになれないとかお金がないから助けてくださいとはなかなか言えない時代だったりして、人と

人との繋がりとか絆とか支援の結びつきは本当に大切なんだなと思いました。それが僕の中ではウェルビーイングを達成するひとつなのかなと思っています。もうひとつは、ここに来られる方々はアンテナの高い人たちだなと思っています。もっと多くの人で議論が出来たら水滴が波になってうねりになっていくんだなと思います。

参加者：ウェルビーイングという言葉がすごくひっかかっています。真の幸せって何って考えたときに幸せって大きな人類のテーマだと思います。これまではどちらかというと大きな幸せ。所得倍増とか経済成長を考えてきたのが、これからの幸せは小さい幸せが自分たちの身の回りにいっぱいあるということを感じて実現していくための仕組み作りとか、それが大事になってくるのかなと思います。まさにビジョンセッションで出てきた小さなテーマとかひとつひとつはまっていくのではないかなと思って、これを行政サイドでも仕組みに入れていったらいいなと思いますし、地域の民の力も大事だと思いますので意識的にやっていくことが大事だと思います。

参加者：ウェルビーイングとか難しい言葉を使わずにもっと簡単に言ったらいいんじゃないかな。もっと一般の人にもわかるような言葉を使っていればよりたくさんの方が参加できるんじゃないかなと思いました。

参加者：元々まちづくりとか好きなので、こういう集まりがあって滑川の人達と出会う機会があって私の今日のウェルビーイングポイントは結構高いです。話していて楽しいなと思ったのと、話している中でチーム外の周りの人たちが意見をくれたりここにいるたくさんの方の取り巻きの方とも喋りたいなと思いました。そこからが官民連携だと思うので次回は一緒に会話ができればウェルビーイングポイントがさらに高まるのかなと思いました。

参加者：ウェルビーイング真の幸せって人によってとらえ方が色々だと思うんですね。ある人にとっては家族が一番大事だし、ある人にとっては仕事が一番大事とか、地域が一番大事とか、それぞれ違って良いと思うんですが、全てが認められるような社会が一番いいなと思います。今回私滑川に住んでいても初めてお会いする方が結構いらっちゃって、同じ滑川市に住んでいてもこんなに色々な様々な活動されている方がいらっしゃるんだなと初めて知りました。知ることってとても大事だなと思っています、こんな素敵な人がいるだから応援したいとか、そういうことって知ることから始まるなと思います。今日皆さんに会えて良かったなと思います。

知事：ウェルビーイングがよくわからないことだという話はよくあるのですが、私も置き換えようとは思ったのですが今は真の幸せであります。実はしっくりきていない。定義をすれば経済的にも身体的にも精神的にも社会的にも満たされた状態ということになります。じゃあどこが一番大切かと言うとそれは人それぞれになると思うんですね。この前東京パラリンピックのボッチャの選手魚津におられますけれども彼女とズームで話すことができました。その時10分間に私は幸せのものと6回言われたんですね。みんな自分は幸せだって言ってますか？第一に。彼女はパラリンピアンですから身体的にはハンディをお持ちです。それでも彼女は10分間に何度も私は幸せ者です。まさにウェルビーイングのMAXのような方なんですね。ここに大きなヒントがあると思います。皆さん一人ひとりが考え

るのです。わかんないじゃ進まないんです。これからじゃあどうやって測るの？ウェルビーイング。これは大きなポイントです。世界中が答えを求めていると思います。どうか、我々のウェルビーイングを測ろう。そんなことを提案していきたいと思います。

参加者：今日はこんな交流があるなんて全然知らなかったんですけど、知事さんや市長さんに直接話ができる機会が貴重だったなって。思ったのはシンプルに若者少くないですか？って。若者が重要っていうよりもいろんな年齢層に対して、県や市が開く必要があると思って。僕が30なんですけれども今一緒にやっている仲間が20代の子達ばかりでやっていて、その世代がもっとここにやる気があって来てないのか知らないできてないのか届ける工夫が必要なのか届いていてもこないのか別問題だと思うんですけども、僕が若者に届けますので。また若者向けでもいいですし、もっとこういう機会を知らせていただければ若者を増やします。よろしくお願いします。

市長：行政は全て県民の幸せ市民の幸せだけを願ってやっているのが行政だということをみなさんにわかってもらいたいなと思います。非常に滑川は子どものことを大事にしているんですけども、例えば二人目から保育料が無料になっています。医療についても高校生まで無料化している。これは国や県に先駆けて。先駆けてやっていけることはやっていく。市民の幸せに結びつくために。そんな行政のウェルビーイングとしてやっていることを知って頂きたいと思いました。ここの児童館。滑川の杉で作りました。今日はここを使ったださりありがとうございました。